

イエス・キリストの啓示 - 第六

眠れる死者の復活

Jeff Pippenger

2023-10-27

私たちは、イザヤ書四十章から始まるイザヤの最後の預言を土台として、2020年7月18日の失望をもって開始された「待機の時」を特定することから取り組みを進めてきました。私たちはまた、黙示録の二人の証人の死を、エゼキエル書三十七章の非常に枯れた骨の谷にいる死者たちと対応づけてきました。さらに、底なしの淵から上ってきた獣によって通りで殺された者たちの復活に伴う、きわめて具体的な出来事の順序を、反復を通して確立しようとしています。

これらの預言の箇所を整合させていくと、私たちは、これまで認識されてこなかった黙示録の一部の封印を解いている。というのも、このメッセージは、人類の恩恵期間が閉じる直前になされるイエス・キリストの黙示の封印を解くことだからである。私たちはこの働きをしている。なぜなら「時が近い」からである。いま成就の途上にある黙示録の真理の封印を解くことにおいて、私たちは、黙示録においてヨハネに託された務めそのものを果たしている。彼は、自分が見たこと、すなわち当時すでに存在していた事柄を書き記すよう命じられ、その事柄を記録することによって、ヨハネは同時に、これから起こる事柄も書き記すことになったのである。

あなたが見たこと、今あること、そしてこの後に起こることを書き記せ。ヨハネの黙示録 1:19

セブンスデー・アドベンチストの人々にとっての論理的なつまずきは、ヨハネの黙示録に対する彼らの伝統的な理解にこそあるのかもしれない。ある人が確立された真理を受け入れながらも、その真理が時とともに展開するよう意図されていることに気づかないなら、当初は正しかった真理の理解が、やがて伝統や慣習へと変質しうる。伝統へと変わってしまった真理は、ラオデキアへのメッセージに表されている盲目さを生み出しかねない。元来の真理は依然として真理である。しかし、その真理が時とともに発展していくことを見通せないことが、盲目を生む。彼らの盲目の原因は真理そのものではなく、盲目は原因の単なる症状にすぎない。原因は、伝統や慣習の心地よさに自己満足している者たちの、聞こうとしない耳、見ようとしない目、そして回心しようとしない心にある。

キリストはその教えにおいて、ご自身がその起源であり、族長たちや預言者たちを通して語ってこられた古き真理を示された。しかし今や、それらに新しい光を投げかけられた。その意味はなんと異なって見えたことだろう。彼の解き明かしによって、光と霊性の奔流がもたらされた。そして彼は、聖霊が弟子たちを照らし、神の言葉が彼らに絶えず開かれていくと約束された。彼らはその真理を新たな美しさのうちに示すことができるようになるであろう。

エデンで最初に贖いの約束が語られて以来、キリストの生涯、その品性、そして仲保の働きは、人々の探求の対象であり続けてきた。しかし、聖霊の働きを受けたすべて

の人は、これらの主題を新たな光のもとに示してきた。贖いの真理は、絶えず発展し拡大していく性質を持っている。古くてなお新しく、真理を求める者に、より大いなる栄光とより力強い御力を絶えず明らかにしている。

あらゆる時代において、真理には新たな展開があり、その時代の人々への神のメッセージがある。古い真理はどれも不可欠であり、新しい真理は古いものから切り離されたものではなく、その展開にほかならない。古い真理が理解されてこそ、新しいものを悟ることができる。キリストがご自身の復活の真理を弟子たちに明らかにしようとされたとき、まず「モーセとすべての預言者から」始め、「聖書全体にわたり、ご自身に関する事柄を彼らに説き明かされた」。ルカ 24:27。だが、古いものを栄えさせるのは、真理の新たな展開のうちに輝く光である。新しいものを退けたりおろそかにしたりする者は、実のところ古いものをもってはいない。彼にとってそれは生命力を失い、ただの形骸にすぎなくなる。

新約を退けながら、旧約聖書の真理を信じ、教えると公言する者たちがいる。しかしキリストの教えを受け入れることを拒むことによって、彼らは、族長たちや預言者たちが語ったことを信じていないことを示している。「もしあなたがたがモーセを信じていたなら、わたしをも信じたであろう。彼はわたしについて書いたからである。」とキリストは言われた。ヨハネ

5:46。したがって、彼らの旧約聖書についての教えにも、真の力はない。

福音を信じ、また教えていると主張する多くの者が、同様の誤りに陥っている。彼らは旧約聖書をないがしろにする。しかしキリストはその旧約聖書について、「それらはわたしについて証しするものである」と言われた（ヨハネ5:39）。旧約を退けることは、事実上新約をも退けることである。両者は切り離すことのできない一体の部分だからである。神の律法を福音抜きに正しく説くことはできず、また福音を律法抜きに正しく説くこともできない。律法は具現化された福音であり、福音は解き明かされた律法である。「律法は根であり、福音はその根が結ぶ芳しい花と実である。」『キリストの実物教訓』127頁。

古きを信じると称しつつ新しきを退ける者という指摘は、聖書全体を信じると主張しながら預言の霊の著作を退けるセブンスデー・アドベンチストに、いっそう強く当てはまる。黙示録においてヨハネは、聖書と預言の霊の双方を受け入れたために迫害されている終末時代の神の民を象徴している。

私ヨハネは、あなたがたの兄弟であり、苦難における仲間、そしてイエス・キリストにある御国と忍耐にあずかる者として、神の言葉のため、またイエス・キリストの証のために、パトモスと呼ばれる島にいた。黙示録 1:9

もし人が、イエスの証し、すなわち預言の霊、すなわちエレン・ホワイトの著作を受け入れるなら、先に引用した彼女の文章が、私が取り上げている問題を明らかにしている。彼女は、「贖いの真理は絶えず発展し拡大しうるものである。古くても、常に新しく、真理を求める者に、いっそう大いなる栄光といっそう強大な力を絶えず明らかにする」と、また「すべての時代において、真理には新しい展開があり、その世代の人々への神のメッセージがある」と書いた。

典型的なセブンスデー・アドベンチストが抱く黙示録の従来理解も真理ではあるが、黙示録全体は終わりの時代の証しである。私たちは現在、今まさに封印が解かれている真理を適用しており、その真理は、黙示録のすべての箇所が終わりの時代に解かれるイエス・キリストの黙示の一部であることを受け入れようとしない人々には認められないだろう。

黙示録11章がフランス革命の成就であるという、アドベンチズムが抱いてきた理解は正しく、ホワイト姉妹もその正しい見解を支持している。しかしその真理は、終わりの時代を例証するために記録された、単なる歴史的事例にすぎなかった。黙示録の書全体は、この預言的現象に支配されている。

私たちは、七つの雷の隠された歴史を土台とし、それを指針として、エゼキエル書三十七章、イザヤ書四十章、ヨハネの黙示録十一章を、マタイによる福音書二十五章の十人の乙女のたとえと結び合わせている。私たちが扱っている預言的出来事の順序の適用を支持する別の預言の筋道は、キリストの系譜にも見いだされ、そこには第二の証しも含まれている。イエスは洗礼を受けられたとき三十歳で、そのときイエス・キリストとなられた。というのは、新約聖書のギリシア語の「キリスト」あるいは旧約聖書のヘブライ語の「メシア」は、「油注がれた者」を意味するからである。

あなたがたも知っているとおりに、そのことは、ヨハネが宣べ伝えた洗礼の後、ガリラヤから始まり、ユダヤ全土に広まった。神によってナザレのイエスは聖霊と力により油注ぎを受け、善を行い、悪魔に虐げられていたすべての人をいやして回った。神が彼とともにおられたからである。使徒行伝 10:37、38。

イエスは三十年間、油注がれるための備えをされた。そしてバプテスマにおいて油注がれると、キリストとして、三日半の預言的な日々のあいだご自身のメッセージを宣べ伝えられた。彼はその後、殺され、墓に葬られ、復活し、そして天に昇られた。三年半に及ぶ宣教活動の始まりは、その死と復活を象徴するバプテスマであり、千二百六十日にわたる宣教活動の終わりに、彼は十字架につけられ、その後よみがえられた。彼こそ初めであり終わりだからである。彼の死と復活という出来事は、さらに三年半のあいだユダヤ人に福音を伝え、その後世界へと広げていった力強い軍勢を生み出した。

聖書の予言にいう反キリストであるカトリック教会は、権能による油注ぎを受けるまでに、三十年の準備期間をも要した。508年には「the daily」が取り除かれた。シスター・ホワイトは、1930年代にラオデキヤのセブンスデー・アドベンチスト教会が「the daily」に関する背教的プロテスタントのサタンの見解へと回帰したという事実にもかかわらず、ミラー派がダニエル書の「the daily」について正しい理解を持っていたことを、私たちに直接教えている。

それから私は、「常なるもの」（ダニエル書8:12）に関して、「いけにえ」という語は人間の知恵によって付け加えられたものであり、本文に属するものではないこと、また主がそれについての正しい見解を「審判の時の叫び」を告げた者たちにお与えになったことを見た。『初期の著作』、74頁。

「常なるもの」は異教を表し、異教ローマは教皇権が地上の王座に上り詰めるのを抑え、阻んでいた。ダニエル書に予告され、その後歴史によって裏づけられ、さらに天使によってウィリアム・ミラーに明らかにされ、そしてエレン・ホワイトによって確認されたとおり、508年に、教皇権の台頭を抑えていた異教の拘束は取り除かれた。キリストの場合と同様に、反キリストは538年に権能を与えられるために三十年間準備した。キリストも反キリストも、権能を受ける備えを三十年間行った。538年に教皇権が権能を与えられると、キリストが三年半の間のちのメッセージを宣べ伝えたのと同じように、預言的な年数で三年半のあいだ死のメッセージを告げた。黙示録11章の二人の証人は、フランス革命の歴史においては旧約と新約を表していたが、彼らにもまた、預言的な日数で三日半のあいだ預言する力が与えられた。

また、わたしは、わたしの二人の証人に権威を与える。彼らは粗布をまとって、千二百六十日の間、預言する。ヨハネの黙示録 11:3

1798年、1260日の預言的期間の後、反キリストは致命的な傷を受けたが、これはキリストが1260日の後に十字架上で死なれたのと同様に、神のことはばを表す二人の証人が1260日の後に通りで殺されたのとも同様であった。

三日目にキリストは復活した。そして、黙示録における反キリストの主要な主題の一つは、その致命的な傷の癒し、すなわちその復活である。キリストの復活は三日目に起こり、二人の証人の復活は三日半の後に起こった。反キリストは三日目に象徴的に復活する。というのも、いくつかの預言的な証しにおいて、三日目は日曜令の象徴だからである。日曜令においては、黙示録13章の海の獣が復活し、海の獣の刻印が試しとなる。その後、国際連合、すなわち黙示録17章の十人の王たちは、十人の王の筆頭であるアメリカ合衆国の指示の下で、反キリストを三重連合の頭として据え、教皇制が地上の王座に就く。

最後の危機に近づくにつれて、主の器たちの間に調和と一致が存在することは死活的に重要である。世界は嵐と戦争と不和で満ちている。しかし、一つの頭-すなわち教皇権-のもとで、人々は神の証人たちを通して現れる神に敵対するために一致するであろう。この結合は大いなる背教者によって固められる。彼は真理に対する戦いにおいて自分の手先たちを結束させようとする一方で、その擁護者たちを分裂させ、散らそうと働く。嫉妬、邪推、中傷は、彼によってそそのかされ、不和と分裂を生じさせる。『証言』第7巻、182頁。

反キリストが復活すると、地上の王座に就き、イゼベルがアハブをカルメル山へ導いたように、ハルマゲドンへの進軍において三者連合を率いる。詩篇作者アサフは、国際連合を表す十の国々を神の敵からなる邪悪な同盟として特定し、彼らが「頭」をもたげること、その「頭」とは「教皇権」であることを示している。

アサフの詩歌。神よ、沈黙しないでください。口を閉ざさず、じっとしておられないでください。神よ、見よ、あなたの敵は騒ぎ立ち、あなたを憎む者どもは頭をもたげています。彼らはあなたの民に対して狡猾なはかりごとをめぐらし、あなたに守られている者たちに対して協議しています。彼らは言います、「さあ、彼らを国として断ち滅ぼし、イスラエルの名が二度と思い起こされないようにしよう。」彼らは心一つにして共に謀り、あなたに逆らって同盟を結んでいます。エドムの天幕、イスラエル

人、モアブ、ハガル人、ゲバル、アンモン、アマレク、ペリシテ人とツロの住民。アッシリアも彼らに加わっており、彼らはロトの子らを助けています。セラ。詩編 83:1-8

そのとき、三天使の旗印が天の中空にはためいている。

私はまた、中天を飛ぶもうひとりの御使いを見た。彼は、地に住む者、またすべての国民・部族・言語・民族に宣べ伝えるための、永遠の福音を携えていた。彼は大声で言った、「神を恐れ、彼に栄光を帰せよ。彼の裁きの時が来たからである。天と地と海と水の源を造られた方を礼拝せよ。」その後、別の御使いが続いて言った、「倒れた、倒れた。大いなる都バビロンは、彼女の淫行による激しい怒りのぶどう酒をすべての国々に飲ませたからである。」また第三の御使いが、彼らに続いて、大声で言った。「だれでも獣とその像を拝み、額や手にその刻印を受けるなら、その者も、神の怒りのぶどう酒、すなわち、その憤りの杯に混じりけなしに注ぎ入れられたものを飲むことになる。彼は、聖なる御使いたちと小羊の御前で、火と硫黄によって苦しめられる。そして、その苦しみの煙は世々限りなく立ち上る。獣とその像を拝む者、またその名の刻印を受ける者は、昼も夜も安らぎがない。」ここに聖徒たちの忍耐がある。ここに、神の戒めを守り、イエスに対する信仰を保つ者たちがいる。ヨハネの黙示録 14:6-12

やがて三天使の旗印が中天にはためく。しかしまもなく、反キリストは国際連合の十人の王たちによって天に引き上げられる。そののち、その旗印は「真理」のメッセージを掲げ、反キリストは伝統と慣習のメッセージを掲げるようになる。三天使は人類に、教皇権の刻印を受け入れてはならないと警告しているが、偽預言者であるアメリカ合衆国が、まさにその刻印を受け入れるよう世界に強いるだろう。

ここで終わりにし、続きは次回の記事で取り上げます。